

番 号	8	区 分	町指定文化財
種 別	史跡	所 有 者	南木曾町
名 称	石柱道標		
指定年月日	昭和41年12月14日		
所 在 地	南木曾町吾妻（橋場）		

概 要

明治25年に賤母新道が開通するまで、三留野(みどの)・妻籠・馬籠(まごめ)の三つの宿場を通る中山道は、古くから幹線道路として重要な役割を果たしていた。ことに妻籠の橋場は、「追分」とも呼ばれ、中山道と飯田街道の分岐点として栄えた所である。この道標が建てられた明治14年は、明治維新後の動乱もほぼ収まり、近代国家へ脱皮していこうとする時であり、橋場の賑わいも相当なものがあったと思われる。

道標は、正面に「中仙道 西京五十四里半 東京七十八里半」、右側面に「飯田道 元善光寺旧跡江八里半 長姫石橋中央江八里」、左側面にはこの道標を建立した人の名が刻まれている。それによると、発起人は飯田の皆川半四郎という人で、当所の松井與六・今井市兵衛・藤原彦作の世話人とともに、飯田・江州（滋賀県）・地元の商人の手によって明治14年6月に建てられたことがわかる。

